のシゴト お手伝いを～

ハラハラ イライラ

のシゴト（お手伝い）をやらせていますか？」ていない」はもちろん、「毎日やらせている」「やったが今はやらない」、またその内容は、「食事ミ捨て」…とさまざまな回答が集まった。それとんどの人が「お手伝いをしたほうがいい」と間や心にゆとりがないなどの理由で、お手伝いなかったりしている人が多いこともわかった。について、考えてみたい。

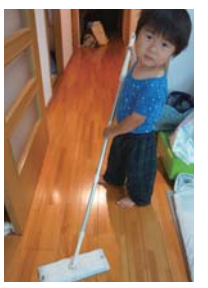
子どものシゴト　わが家の場合

ゴミの分別

子どもたち（小5、小4、年中）の共通のシゴトは、資源ゴミ捨て係。毎週水曜日、1週間分の大量のゴミを、ダンボール、プラスチック、発泡スチロール、缶、ビン、衣類、ビニールとそれぞれ分類して、ゴミ収集所へ。最初は面倒くさがっていましたが、今はエコの気持ちも芽生え、せっせと分別しています。（村本聖子）

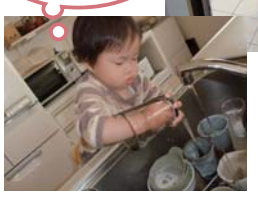
床そうじ

3歳の息子にやらせているというより、本人が気が向いたときにしています。おもにモップワイパーで床そうじ、食事前の食器運び。自分の好きなことだけやっているので、お手伝いは楽しく、遊びの一つと思っています。いつも「助かる～、ありがとう！」とおだてるので、最近は「お母さん助かった？　ありがとうは？」と言われます。（宮下彩）



玄関そうじ 食器洗い

8歳の長女、玄関そうじの巻。これは、私の苦手分野ということもあり、とても助かっています。4歳の次女はゴミ出しが得意。写真は食器洗いに夢中の三女（2歳）。当然、洗い直しが必要ですが、やる気を削がないよう、見守っています。（益子由実）



下の子の面倒を見る

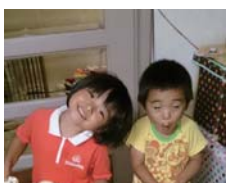
4歳の長女は「お手伝い」がマイブームとばかり、皿洗い、配膳、洗濯物をたたむ、靴を並べる、買い物の荷物を持つ、窓拭き、次女にごはんを食べさせる、玄関を掃く…どれも楽しんでやってくれます。特に、次女にごはんを食べさせるのが上手。これは、ありがたい！（中村泰子）

パンを運ぶ

4歳の娘が配膳のお手伝いをすると、1歳の弟も真似して運んでくれます（こちらはかなり危ない）。自分でテーブルに運んだものは、きちんと食べきる確率が高いです。（橋本宏美）

洗濯物運び

小2の長男は宿題が終わったらすぐ遊びに行き、家事には興味なし。年長の娘はたまにお料理を手伝ってくれます。「お手伝いロボ」の2人（年長、年少）は、洗濯物のかごを運ぶだけでも競争になるほど。毎日続いている「お着替え運び屋さん」。お手伝いをするとママが喜ぶとわかっているようです。（河口緩美）

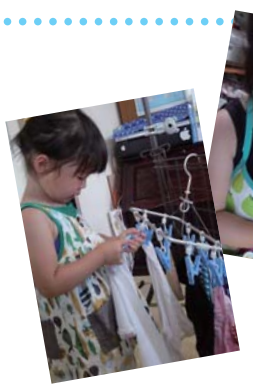


洗濯物たたみ

まだ11か月なので、ちっとも役には立っていませんが、洗濯物をたたむときは必ず、隣で広げて遊んでいます。今は、母がやっていることを見ているだけでいいと思っています。いつかはお手伝いできるようになるよね～と願いながら。（森永亜希子）

ゆで卵の殻むき 洗濯物干し

2歳半なので「お手伝いごっこ」ですが、私がやるときに声をかけると、気が向けば一緒に。NHK『キッチン戦隊クックルン』のクミンちゃんが好きなので「クミンちゃんやって」と言うと、エプロンをつけ張りきってやってくれます。ゆで卵の殻むき、靴下やハンカチを干すのは大好きみたいです。（三谷香織）



ゴミ出し

小4の息子のシゴトは、お布団敷き&たたみとゴミ捨てです。お手伝いというより、しつけかな。お風呂そうじ、洗濯物とりこみ。お手伝い履

私が子どもだった頃

懐かしい子ども時代のお手伝いの思い出。
時代が違っても、その経験は生きています。

●小さい頃は、家の前の道路の落ち葉掃き、廊下のそうじ、高校生になってからは買い物、家族の夕食づくり…。こうした基本的な家事経験が大人になってから役立っていますので、子どもの年齢が上がるにつれ、お手伝いの内容も増やしていきたいと思っています。

●お米とぎなどさせられていました。ずっと「させられてる感」があったせいか、今、子どもに上手に家事を分担させられません。

●母が働いていたため、そうじは週末イベントでした。家じゅうの雑巾がけ、風呂そうじ、洗面所そうじ、庭の水遣りなどを姉と私で分担。全部終わってみんなで行く「ファミレスモーニング」が楽しみでした。

●1年生からだったか、「味噌汁の味噌を溶く」のが私の担当でした。踏み台に乗り、おたまの中の味噌を菜ばしで少しずつ溶いて…。時間がかかったと思います。それでも、任せてもらえるのがうれしかったんですよね。今も味噌汁をつくるたびに、そのときの気持ちを思い出します。

●毎日していたかは不明ですが、夏休みの「お風呂洗い」。お手伝いというより「義務」でしたが、お弁当箱は自分で洗わないと翌朝つくってもらえない約束になっていました。

●夕方の「玄関そうじ」は日課でした。家族やお客様を迎えるところで、玄関を見ればその「家」がわかると祖父。祖母からは、よく「おつかい」を頼まれました。共働きだった両親に代わり、家のことは祖父母に教えてもらうことが多かったです。

●母が苦手で私が好きな「アイロンがけ」を、小学生の頃からやっていました。4年生のとき、忙しい母に代わり、一人で夕食をすべて用意したときは、我ながら誇らしく、自信が持てました。

●小学生の頃から好きで、すすんでやっていたのが「父の靴磨き」です。出がけに「おっ、こんなにキレイに磨けるなら、将来は靴屋さんだな」と言われてうれしく、「靴屋さん」になろう（なれる）と、ずっと思っていました。

●アラフォー世代の私。「あなたも男並みに外でがんばって！」と母に言われ、何一つ家のことはやらずに大人になり、困ったこともあります。もっと手伝っておけばよかったなとの後悔から、「男の子にもやらせる」ことに行き当たりました。家事は生きていくために不可欠な、楽しくて大切な仕事よと、子どもたちには伝えたいです。

●「食器洗い」や「ゴミ出し」をやっていましたが、自分の役割があることがうれしく、ちょっと大人に近づいた気分でした。

●わが家は「おこづかい」ではなく、お手伝いをして「お駄賃」をもらう派でした。「犬の散歩」1回100円。毎日行けば、1か月3000円の稼ぎ！ せっせと行きました（笑）。

●4人きょうだいでしたが、母が洗濯をするたびに、右と左の靴下が違ってしまうことが多く、小学生の頃から洗った「靴下を正しくセット」するのが私のシゴトでした。廃品回収（ちり紙交換）に出すために、読み終えた「古新聞を紐でしばる」のも得意でした。どこかルーズな母でしたので、私がちゃんとやる！という気持ちがあったように思います。

●「回覧版を回す」役。団地に住んでいたときは、「自転車置場の整理」。家族もそうですが、近所の人にも褒められたかった。おかげでかわいがられていた記憶があります。

●お料理が好きだったので、小さい頃からいつも「台所仕事」を手伝っていました。小学校の調理実習のとき、みんなが包丁を持ったこともなく、なんにもできない（知らない）ことに驚きました。